「大船渡の介護ケア施設をみんなで彩るペイントワークショップ」企画書

本プロジェクトは、10 月 28 日と 29 日に、岩手県大船渡市の介護老人福祉施設及びグループホームにてワークショップを行い、施設利用者とスタッフとその家族、さらに岩手県立大船渡高校美術部の生徒とともに、施設の内外をペイントするものです。

東京藝術大学大学院美術研究科デザイン専攻第 10 研究室（藤崎研）では、震災復興支援のために 2014 年から岩手県大船渡市に毎年訪れ、高齢者施設や小学校などで活動を行ってきました。

昨年 10 月、藤崎研では、社会福祉法人典人会が運営するグループホーム「ひまわり」で、外壁と通路の壁にヒマワリの花を描くワークショップを実施しました。これが施設利用者にもスタッフにも地域の方々にも大好評で、継続的に行ってほしいという要望があり、今年度も典人会が運営する介護施設のペイントを行うことを企画しています。
事前に現地を視察し、藝大生が主要な絵柄を決め色彩計画を練り、パーツを準備するので、誰もが簡単に参加できて参加者の自由度は高いが、全体に統一感のある完成度の高い成果物が得られるというワークショップを実現します。

2022 年の様子。大船渡高校生徒との協働作業

廊下のペイント。施設の家族も参加

高齢の利用者もステンシルの色塗りに参加

【本プロジェクトの狙いと期待される成果】

①アートの力で介護施設を開かれた場に

建物の外装や内装を花などで彩るペイントワークショップを、地域の人たちとともに行うことで、閉鎖的になりがちな福祉施設を地域に開き、人が集える場にする。

②アートが生む世代間交流

スタッフの家族や地域のこどもたち、協力してくれる地元高校生と、大学生がいっしょに絵を描くことで、アートがコミュニケーションの契機となり、様々な世代間交流が生まれる。

③描画による認知能力保持の実証

施設利用者にいつも通る廊下をペイントしてもらい、自分が描いた時の様子を写した写真をそこに掲示することで、記憶を想起する力や認知能力にポジティブな影響を与えることができる。自ら描いたものを日々鑑賞することも社会的な処方につながるものと考える。

④ケアの現場の創造性を知る

参加する学生にとっては、ケアの現場を直接触れることで、介護に携わる方々が日々目には見えない創造性を発揮して利用者に寄り添い仕事をしていること知ることで、創造性とは何かを考える絶好の機会となる。

2023 年 6 月 29 日　東京藝術大学美術学部デザイン科教授　藤崎圭一郎